

•スペースパークボランティアの会•

第10号

平成18年9月

S.P.Vつうしん

発行：スペースパークボランティアの会 広報部会

〒963-8002 福島県郡山市駅前2-11-1 郡山市ふれあい科学館内 TEL024(936)0201

夏といえば…

今年も大賑わい!!

☆サイエンスフェスティバル☆

暑い夏には“暑く盛り上がるサイフェス!!”

今年も“サイフェス”は、パワー全開で、パートⅠ。【7月15日(土)～17日(月)】、パートⅡ【8月12日(土)～16日(水)】で開催しました。

科学ボランティアでは、昨年に引き続き人気メニューの“マイ磁石をつくろう!”を行いました。

“磁石つくり”はこれまで何度か取り組んできましたが、なかなか期待通りの磁力まで到達せず、今回はこれまでの反省を生かし、電源装置を替え、通電時間やコイルに工夫と改良を重ね、チャレンジ。

何の変哲もない鉄釘を魔法の筒(コイル)!?に入れると磁石に変身!これを釣り針代わりに釣り竿を作りました。

今回も大幅な磁力のアップはできませんでしたが、微妙な磁力を頼りに“科ボラ釣り堀”を楽しんでもらいました。

釣り堀には、タコ、カニ イカ、アジ、ブリ、ヤドカリ、金魚など、豊富な魚たち。クリップを付けスタンバイ。みんなに釣られるのを待ちます。遊び方もいろいろで“N極・S極”と磁石について真剣に考える子どもや磁石を作ることよりもひたすらクラゲを狙う子ども(食べられないですよ…など、釣り堀に熱中する子どもも多く、第二釣り堀を増設して対応したり、魚の型紙切りに追われることもありました。たくさん釣ってもお土産は一匹だけ。さあどれにしようか、真剣に悩む姿がありました。

“昔、砂場で砂鉄集めをしたね”と懐かしがるお母さん。“左ヒラメ、右カレイ”とやたら魚に詳しいお父さん。“川でザリガニを捕えて食べた事があるよ”(えっ、食べられるの?)と思い出に浸る人も…。皆さんそれぞれに楽しんで頂けたようで嬉しく思いました。これでますます元気になれる

科ボラであります。

期間中はお盆休みとあって、対応者のやりくりに苦労しましたが、今後は磁石の一層の強化を図り“磁石づくり”第三弾を企画したいものです。(山崎、星)



新規登録会員の一言

案内 サービス グループ

昔懐かし
紙芝居



県内一の高層ビルに在る“郡山市ふれあい科学館”で「紙芝居」とは、「宇宙天体を主体とするものか?!」との思いで、私が既に行っている「民話紙芝居」の参考にさせて貰おうと参加しました。先日第1回目の実習では、先輩の仕方を模倣し、将来宇宙飛行士(?)に夢を託す子どもたちを前に演じさせてもらいましたが、真剣に見て聞いてくれる光景に接し、こちらも彼らの持つ夢を育むために、一心に演じ、「有難う」と言われた時は、心からやる気を抱かされました。(金山)



ボランティア活動は初めてですが、想像していたよりもやりやすかったです。しかし、来館者にうまく説明することができず、戸惑うこともありましたが、先輩の方たちが親切に接してください、とても助かりました。

また、活動を通じ私自身も郡山市内について学ぶことができました。ただ、子どもさんたちの数が少なくて、楽しみだった紙芝居ができなかった時は残念でした。

これからの生活の中でボランティアの経験が生かされるように日々頑張りたいと思います。(羽田)

鉄道ジオラマ グループ



折に触れ、鉄道OB会より郡山市ふれあい科学館の鉄道ジオラマでのボランティア活動へのお誘いがありました。が、諸般の事情に依り躊躇しておりました。今般、鉄道OB会郡山支部役員の端役を担う事となりましたのを期に、スペースパークボランティアの会へ登録いたしました。

今後は、郡山駅西口駅前広場に隣接し、威容を誇る「ビッグアイ」の一翼を担う郡山市ふれ

あい科学館の、日本で最大規模を誇るNゲージ鉄道模型「鉄道ジオラマ」でのボランティア活動を行うわけですが、未経験の[初心者マーク]ですので、先輩諸兄を始め、関係各位のご指導を賜りながら鉄道ジオラマ案内に努めております。御来館いただきました皆様にご満足して頂き、なおかつ、その方々からご友人、お知り合いの方等に施設の良さをお話頂き、それが水紋の様に輪が広がって下さらん事を念じつつ、微力ではございますが活動させて頂きたいと思います。(佐藤孝)

科学 グループ



子どもたちと話をしていると新しい発見があります。私も一緒に、なぜだろう?と考えることができ、良い経験だと思います。ここでは様々な方と触れ合う機会が多く、とても貴重な体験をしています。科学館へいらっしゃった方に楽しんでいただけるように、これからも頑張りたいです!!(中村)



活動で色々な方たちと触れ合えてとても楽しいです。多くの方たちに郡山市ふれあい科学館のおもしろさを味わってもらいたいです。初めてのことで何かと不慣れな点もありますが、先輩のボランティアの方たちに色々教えていただきながら、一生懸命頑張りますのでよろしくお願いします。(増子)

天文 グループ



今年の5月「ボランティア大募集」の広告に目が留まりました。オリエンテーションで活動内容を聞き、接遇研修を受け、晴れてボランティアの一員として登録されました。活動に参加すると戸惑いの連続ですが、色々な方と接する機会があり、訪れた方の感動の表情・声が印象に残っています。先輩ボランティア及び職員の方々からいただいたアドバイスを今後の活動に生かし、足を運んでくださった方々と感動の時間を共有できれば、と考えています。(伊東)



中学生の頃図書館で見た「200時で見る星の世界 天体写真集」鈴木敬信著にあったアンドロメダ星雲・馬頭星雲に魅せられて以来、望遠鏡で月や土星を見て楽しんでいます。今回転勤を機に皆さんと一緒に星を楽しみたいと思い、ボランティアに応募しました。実際に活動に参加し、多くの方と星を見るのはとても楽しい時間です。よろしくお願い致します。(宮嶋)

★H18 第一期新規登録会員数 20名★

初の出張ボランティア

大成功のカギは 「考える前にまず行動！」

6月3日(土)中央公民館で、小学5年、6年生の30数名を対象にS.P.V科学グループと科学館職員計約10名が参加して、約2時間の課外授業を行ってきました。

当初「準備期間が短いかな?」と感じましたが、内田先生の強いリーダーシップによるく出し物くの決定と、有志2名の度重なる焼き鳥屋での打ち合わせにより、なんとか2時間のく課外授業くに耐えうるもののが完成しました。このとき感じたのはく出し物くは、やる前からいろいろダグダグと考えずに、くとにかくやってみるくことが大切で、準備を進めていくうちにいろいろとアイデアもわいてくるわけです。結果を恐れぬ強い意志(?)が我々ボランティアには必要なのだとと思いました。

しかしうつくりしたのは、私の質問に予想外の速さと正確さで、答えてくれた子どもたちです。(確実に大人の負け!)学力低下が叫ばれる昨今ですが、暗算が速い・数字に強い・優秀な小学生は郡山にも確実に存在しているということです。日本もまだまだすてたもんじやないと確信しました。(でもやっぱり子ども。工作では、ちょっと不器用なのが目立ちました。ちょっとセコイけど大人の勝ち!)



最後に、貴重な体験をさせていただいた子どもたちと、ボランティア活動をサポートしていただいた科学館の方々に感謝いたします(ハゲ博士とゆかいな仲間たち)

星空は見えなくとも、 楽しいひと時

七夕の翌日の7月8日、梅雨のまつた中の開催となり、あいにくの天候となった富田公民館での親子観望会の出張活動でした。実はこの日は天文ボランティアが主催となる初イベント。雨が降らなかったので望遠鏡を組み立てて雲が切れるのを祈りながら待ちましたが、結局最後まで晴れ間を見ることはできませんでした。

その為天文のエース、斎藤(正)さんが今まで撮った美しい写真を織り交ぜながらの天文講座を開催。集まった子どもも大人も話しに引き込まれていきます。

その日の目玉はアリゾナ大隕石孔の写真と、その隕石の破片の実物の回覧。子どもたちはじめて自分の手で隕石を触り満足したようです。そして、科学館職員の安藤さんから七夕にまつわる星空の話なども交え、前半は終了。

その夜は、春のボランティア祭りで好評だったクレーター作成、また、望遠鏡で近くの高い木の先を覗いたり、“超高性能筒”による疑似天文観察を行いました。

天文の話を聞いた後だけあって、望遠鏡に触れること自体にも興味をもってくれました。曇天のもとでも望遠鏡を覗いて見える風景は明るく、薄暗がりの中で遠くの木が風で揺れているのを見て喜んで貰えたようです。天候に恵まれなくても、望遠鏡で楽しむことができることを実感できました。とはいっても本当の星が見られる、梅雨開けの観望会が楽しみです。(吉水)



天ボラの 冥王星 知識泉

平成18年8月24日、新しい「惑星の定義」が国際天文学連合総会で承認され、そして、冥王星が惑星から外されました。新しい惑星の定義には三つの条件があり、「一つに太陽の周りを回っている」「二つに自分の重力で丸い形を保っている」「三つに自分の軌道の近くから他の天体をなくなさせた」ことを満たして「惑星」と認められます。冥王星の軌道上にはたくさんの

冥王星に似た天体があるため三つ目の条件に合わないらしい?

地球から見る冥王星は光度が14等級で、口径30cm以上の大型望遠鏡を使わないといつても見ることが出来ません。天文マニアの私としては「いつかは太陽系最果ての惑星、冥王星を肉眼で見る」を目指していたので、何か肩すかしをされたようでとてもさびしいです。(斎藤 正)

内田博士の 魂の叫び!! ④ 『実りの季節だ～!』

“昨日はごめん(すいませんでした)”と素直に言いたいところだけど言えない、何とも言えないもどかしさを経験したことないでしょうか。大きな声では言えませんが内田博士はしょっちゅうあります。こんな時は昨日は何ごともなかったかのように元気一杯大きな声で“おはよう!”と挨拶するのでした。すると大抵は“おはよう…”と返ってきますし、逆に相手から“昨日はごめん…”なんてこともしばしば。これでわだかまりは一先ず解消。これをお読みになったあなたが“そんなに簡単に訳ない”とか“そんな無神経な”と言いたいのはわかります。ところが、これが実に効果的なのです。(ここで注意したいのは“チエッ!挨拶したのに返ってこない!”や“全然効き目無いよ!内田の奴に騙された!”などと思わないことです。)一度目は無視されても良いのです。二度三度と続けることが重要なのです。そうすれば必ず“おはよう”と返ってきます。相手に“譲れる・譲れない”

問題になりませんし、どうせこの一件について後になって“実につまらないことだった”と思うのは目に見えているのでした。大切なことは素直な心を持つことと常にベストな環境作りを心掛けること。だからこそ案外難しいものなのかも知れません。スペースパークに足を運んでいらっしゃる方々は地域住民から県外の方、何度もお越しされる方から一生で一度しかお越しにならない方まで様々です。楽しみにしていた工作体験の作品を宝物のように持て帰る来館者の姿を通して、私達は楽しんで頂くことはもとより“何を伝えていきたいのか?”を問い合わせながら楽しくベストな環境でS.P.V活動していくことを心掛けたいものです。




イベント情報


Event Information

鉄道フェスティバル 10:00~17:00

※9日のみ16:00まで

● 10/7(土) ~9(月・祝)

今年もまた、鉄道の日記念・鉄道フェスティバルが開催されます。毎回大好評のS.P.V鉄道ジオラマグループ会員所有のNゲージ鉄道模型操作体験、数多くの貴重な鉄道資料の展示、ペーパークラフトコーナーなど盛りだくさんで皆様のお越しをお待ちしています。

- Nゲージ鉄道模型操作体験コーナー
- 旧国鉄・JR関連の鉄道資料コレクションの展示
- 自転車発電で走る鉄道模型!「ジ(THE) 転車でGO!」
- 工作コーナー(電車のペーパークラフト)



展示品の一部



S.P.V 活動情報(～12月)

※科学館休館日を除く。なお都合により活動が休止となることがありますのでご了承下さい。

案内サービス “昔懐かし” 紙芝居

◇平日11:30~、土日祝11:30~、14:30~(約15分)
☆随時実演

鉄道ジオラマ ジオラマショー案内

◇平日11:00~のみ、土日祝11:00~、15:00~(約20分)

科 学 かんたん科学工作ほか

◇土日祝10:00~16:00(展示ゾーン入館者)

天 文 駅前観望会

◇11/4(土) 18:00~19:00



他に市内出張活動や駅前イベント(11/3~5)にも出展予定

今号のきら星☆さん

鉄道ジオラマグループ 蓮見さん

最近の夏は異常気象が多いように思われます。地球の温暖化が進んでいるからなのでしょうか。一方、天空に目をやれば太陽系惑星が1個減少したとか、詳しくは天ボラの仲間たちにお聞きするとして、当科学館松本零士名譽館長さんや銀河鉄道の車掌さんも終着駅が見つかずお困りと話題を賑わしています。毎日、私たちのユニホームも、過去4年有余親しまれてきたエプロンスタイルから、装いも新たなオレンジ色のベストになり心機一転、

一層活動に傾注したいと思っております。そして、待ちに待った10月の「鉄道の日」にちなんで開催される「鉄道フェスティバル」がやってきます。純白の制服、制帽、赤腕章を着用すれば身もキリリと締まり専務車掌職であつた当時が思い起こされ、接客サービスにも熱が入ります。今年も子どもさんなど多くの市民の方が訪れます「鉄フェスのキラ星さん」になるよう頑張ります。



★『S.P.Vつうしん』発行予定 第11号 12月下旬／第12号 3月中旬★

★S.P.Vの楽しくてタイムリーなボランティア
活動情報をHPでお知らせしています

HPアドレス <http://www.spacepark.city.koriyama.fukushima.jp>

募集や活動等についてのお問合せは……ふれあい科学館 TEL 024(936)0201まで

編集あとがき

夢は果てなく!

スペースパークボランティアの会(S.P.V)の日記を紐解いてみると、H13.10郡山市ふれあい科学館が開館して、H14.6鉄道ジオラマボランティアが活動開始したのを始めに、H15.7案内サービス、科学、天文の各グループが活動開始し、翌H16.2独立した組織としてS.P.Vが設立されました。そして同年7月「S.P.Vつうしん」が創刊されるにいたりました。今年は科学館が開館5周年にあたり、「S.P.Vつうしん」も第9号からカラーとなり、今回第10号を発刊することになりました。この節目にあたる今年さらに私たちの夢と希望を乗せた「S.P.Vつうしん」を発展させ充実したものとなるよう努力していきたいです。(瀧田)れ

